

「福井ふるさと元気宣言」推進に関する政策合意

私は、知事の政策スタッフとして、「福井ふるさと元気宣言」に掲げられた政策等を実現するため、次に掲げる施策・事業について重点的に実施することを西川一誠知事と合意します。

平成 27 年 7 月

福井県知事 西川 一誠

観光営業部長 佐々木 康男

27 年度目標（30 年度目標）

27 年度の施策

1 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略

◇「幸福日本一・福井」の新ブランド戦略【部局連携】

○「福井の知名度・好感度」全国上位へ

- ・幸福日本一の秘密を分析し、「幸福日本一の福井の暮らし」など、福井ならではの魅力をインターネットやポスター等により国内外へ広く発信します。

（平成 26 年度 知名度・好感度 45 位）

42 位（30 位台）

○福井が主役の「大河ドラマ」

- ・平成 30 年が明治維新 150 年の節目となることから、幕末・維新に活躍した本県ゆかりの偉人を題材としたテレビドラマ化に向け、県内気運を高めるとともに、誘致活動を本格化します。

○福井のアニバーサリー

- ・幕末・維新に活躍し、近代日本の幕開けに活躍した本県ゆかりの偉人達について、功績やエピソードを収集するとともに、県内外の歴史研究者等を招いた会議を開催して検証を行い、その結果を県民、全国に発信します。

◇「恐竜渓谷100万人構想」の実現【部局連携】

○楽しみ学べる恐竜博物館

- ・大型肉食恐竜「アロサウルス」の実物全身骨格など 32 体の化石等を新たに購入し、組立作業の公開も含め、展示のスケールアップを図ります。

(平成 26 年度 恐竜博物館入館者数 70 万 9 千人)

80 万人 (100 万人)

- ・展示・研究機能やアミューズメント機能を強化するため、「第 2 恐竜博物館」について、民間活力の導入も含め、整備方策を検討します。
- ・勝山市内において「動く恐竜ライブ」を開催し、恐竜博物館とまちなかとの周遊の流れを作り、地域全体の誘客を促進します。

○恐竜学研究の世界拠点へ

- ・第 4 次恐竜化石発掘調査や国内外の共同発掘調査・研究を継続して進めるとともに、アジア 6 か国で構成する「アジア恐竜協会」の中心的役割を担い、アジアにおける恐竜研究の拠点としての地位を確立します。

○恐竜ビジネスの新展開

- ・大企業や有名キャラクターとのコラボなど、公式恐竜ブランド「ジュラチック」を活用した全国流通商品の開発・販売を促進します。

◇観光フロンティア・福井【部局連携】

○100万人観光地の創出

- ・現在、県内 7 地区で実施している「観光まちなみ魅力アップ事業」を着実に推進するとともに、**100 万人観光地の創出**に向け、「観光エリア」としての魅力を高めるため、ハード・ソフト両面から「線と面」に対する支援スキームをつくります。

(平成 26 年度 100 万人観光地 1 か所)

1 か所増 累計 2 か所 (累計 5 か所)

○観光客 1300 万人の実現

- ・北陸新幹線金沢開業に伴う観光客の増加傾向を確実なものとするため、上野駅など首都圏において集中プロモーションを実施します。

- ・「北陸デスティネーションキャンペーン」において、食の祭典や知名度の高い観光地を周遊するバスツアーなど、本県の魅力をアピールするイベントなどを実施します。

- ・若狭さとうみハイウェイや京都縦貫自動車道を活用して、関西・中京圏だけでなく、中国・四国地方からの誘客拡大も図るため、「海湖と歴史の若狭路」キャンペーンや京都府、滋賀県等と連携した高速道路企画割引などを実施します。
- ・日本遺産「御食国若狭と鯖街道」を活用し、関西からのゲートウェイである熊川宿から若狭全域で歴史文化や食などを巡る周遊観光を推進し、国内外からの観光客の増加につなげます。
(平成 26 年 **観光客入込数** 1,130 万人)

1,200 万人 (1,275 万人)

- ・核となる観光地のさらなる磨き上げを着実に進めるとともに、市町と連携した観光地のネットワーク化、土産品や食べ物の開発、新たな観光ルートの設定などを進め、観光消費額の拡大につなげます。
(平成 26 年 **観光消費額** 876 億円)

1,000 億円 (1,150 億円)

- ・観光事業者などが行う、地域資源を活かした魅力ある土産品の開発・販売を支援するとともに、小松空港のアンテナショップなど販路拡大もサポートし優良土産品づくりを促進します。
- ・観光実態調査やビッグデータなどを利用して、観光客の移動経路、利用交通機関ごとの立ち寄り箇所などの傾向を詳細に調査・分析し、新たな観光地や観光ルートの整備に反映させます。

○嶺南観光の新推進体制の構築

- ・「海湖と歴史の若狭路」の広域観光圏を確立するため、県と嶺南市町、観光団体、民間事業者等による観光推進体制を強化します。
(平成 26 年 **嶺南地域の主要観光地入込客数** 333 万人)

350 万人 (370 万人)

○奥越を自然環境の体験学習エリアに

- ・恐竜博物館やスキージャム勝山を訪れている観光客をターゲットに、奥越エリアの自然環境体験学習等ができる周遊観光ルートを確立し誘客を図ります。
(平成 26 年 **六呂師高原入込客数** 116,000 人)

128,000 人 (173,000 人)

○海外誘客の強化

- ・本県の重点市場と位置付ける台湾、香港、中国、タイ、シンガポールにおいて、海外事務所を活用し、現地旅行者への訪問営業等の誘客宣伝を行います。

(平成 26 年 外国人宿泊者数 31,000 人)

42,000 人 (80,000 人)

- ・外国人誘客に向けて、本県観光の新たなブランド設定を行うとともに、売り込んでいくべき顧客領域の絞り込みを図ります。
- ・国の広域観光周遊ルートに認定された「昇龍道」や「美の伝説」を活用し、本県を含む広域観光コースを設定し、関係府県とともに海外に売り込みます。
- ・外国人受入環境の整備のため、主要観光地において無料公衆無線 LAN 環境を整備するとともに、消費税免税店の開設を支援します。

(平成 26 年度 無料無線 LAN 整備済みの入込数 20 万以上観光地

6 か所

消費税免税店数 8 店)

24 か所増 累計 30 か所

20 店増 累計 28 店 (累計 50 店)

○観光人材の育成

- ・福井県観光アカデミーを開設し、本県観光におけるイノベーションを創出するため、現場感覚と理念の両方を持って、観光産業やまちづくりをマネジメントできる人材の育成を目指します。

2 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ

◇「ふくい食ブランド」を地産・外商【部局連携】

○海外に売り込む「福井の食」

- ・ミラノ国際博覧会に「禅（ZEN）と精進料理の福井」をテーマに出展し、福井の食文化や伝統工芸品をPRするとともに、ミラノ市内で、観光セミナーや商談会等を開催し、誘客拡大や販路拡大につなげます。
- ・台湾、タイやシンガポールにおいて、JA、県漁連、企業等と共働で販促活動を展開し、新たに輸出に取り組む県内企業を増やします。
(平成 25 年度 輸出に取り組む県内企業 14 事業者)

18 事業者 (30 事業者)

- ・JA や県漁連、生産者と共働で都市圏の一流ホテルや大手百貨店に食材を売り込むマッチング商談会を開催します。またホテルやレストラン等での「福井フェア」を拡大し、大都市圏の消費者が福井の食を知り、味わう機会を増加します。
(平成 26 年度 福井フェア開催件数 24 件)

27 件 (4 年間計 110 件)

3 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に

◇福井の文化をもっと身近に

○子どもの文化・芸術活動

- ・小学 5 年生全員を県立音楽堂での本格的なオーケストラコンサートに招くほか、新たに演奏家を中学校に派遣する「出張音楽堂」を開催します。
- ・学校鑑賞会として県文化施設の企画展に児童生徒を招くほか、美術、書道、演劇などの分野において、中高生が一流の芸術家から指導を受ける機会を拡大します。
(平成 26 年度 一流の芸術・文化を体験する子どもの数 7 万 5 千人)

7 万 7 千人 (8 万人)

○文化施設の活性化

- ・研究者など外部協力者からの情報を収集しながら、県外に所蔵されている福井ゆかりの美術品等の蒐集を進め、本県所有のコレクションを充実させます。

(美術館)

- ・日本初公開のコレクション「エジプト美術展」、大本山永平寺所蔵の国宝・重要文化財等 100 点を一堂に公開する「大永平寺展」などを開催し、県内外からの誘客を進めます。

(平成 26 年度 **美術館の入館者数** 240,235 人)

24 万 5 千人

(若狭歴史博物館)

- ・若狭の歴史・民俗観光ゾーンの中核施設として、日本遺産記念特別展、武田氏の本家である若狭武田氏を全国にアピールする「若狭武田氏の誇り」などの企画展を開催し、若狭の歴史・文化を県内外に発信します。

(平成 26 年度 (7 月～3 月の 9 か月分) **若狭歴史博物館の入館者数**

49,062 人)

6 万人

(歴史博物館)

- ・県外に流出した本県ゆかりの優れた文化財を一堂に集め展示する「再会・ふくいゆかりの名宝たち」など魅力ある特別展を開催し、本県の歴史・文化遺産の価値や魅力を発信し、県内外からの誘客を進めます。

(平成 26 年度 **歴史博物館の入館者数** 90,546 人)

9 万 5 千人

◇福井が誇る歴史遺産の発信

○一乗谷朝倉氏遺跡のレベルアップ

- ・全国レベルの中世の研究拠点として、研究・収蔵機能を充実し、新たに展示・ガイダンス機能を備えた博物館の整備に向け、基本計画の策定に着手します。

- ・復原町並での戦国城下町の人々の生活再現、特別名勝庭園の再生・観賞化など、スケール感のある歴史的空間として整備を進めます。

- ・県と福井市との間で、業務や役割を十分に協議し、推進体制の強化を図り、ミュージアム化を進めます。
- ・資料館での大型特別展「一乗谷 戦国城下町の栄華」、特別公開展を開催し、出土資料を積極的に公開します。
(平成 26 年度 朝倉氏遺跡観光入込客数 69 万人)

75 万人 (100 万人)

○福井の遺産を日本・世界遺産へ

- ・一乗谷朝倉氏遺跡、白山平泉寺、大本山永平寺など中世の歴史遺産をはじめ、本県に集積する魅力ある遺産群の「日本遺産」認定を推進します。
- ・越前和紙の技術保持団体について、ユネスコ無形文化遺産である「和紙」への早期追加登録に向け、教育委員会と共動し、国の重要無形文化財への指定を推進します。
- ・道元禅師が禅の奥義を著した大本山永平寺の国宝「普勸坐禅儀」のユネスコ記憶遺産登録を推進します。

4 豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に

◇景観を県民資産に

○「わがまち景観」の保全継承

- ・古き良きふるさとの伝統的民家・まちなみ保存の拡大を図るため、「福井ふるさと百景活動団体」と「伝統的民家群保存活用推進地区」の認定・指定を継続して進めます。

(平成 26 年度 (累計) 福井ふるさと百景活動団体・

伝統的民家群保存活用推進地区 55 団体)

10 団体増 累計 65 団体 (累計 85 団体)

- ・景観づくり活動団体同士の交流会を充実させ、さらに団体等の活動に関する情報発信を積極的に行うことによって、県内全域における景観づくり活動を活性化します。
- ・国の重要文化的景観や重要伝統的建造物群保存地区の選定に向けて、調査・検討を行い、地元市町等の協力も得ながら国へ働きかけます。
- ・白山の眺望ポイント（白山伏拝等）の視点場整備に着手し、白山の魅力を発信する機会を拡大します。